子どもの過敏性とその特性

小児科学講座（小児発達支援学部門）
阪上　由子

国立大学法人
滋賀医科大学
SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

滋賀医科大学は
開学50周年
50th ANNIVERSARY

©Shiga University of Medical Science All Rights Reserved.

自閉症スペクトラム障害（ASD） DSM-5診断基準

A：全般的な遅れではなく、文脈に応じた社会的コミュニケーション、社会的相互関係の持続的障害

1.社会的・情緒的相互関係

2.非言語コミュニケーション

3.関係を発展維持

B：行動、興味または活動の限定された反復的な様式

1.常同的で反復的な話しぶり、運動動作または物の使用

2.過度な日常への固執、変化に対する過度な抵抗

3.限定的で強い興味・関心

4.感覚入力に対する過敏性あるいは鈍感性、あるいは感覚に関する普通以上の関心

C：幼児期に必ず出現するが、後になって明らかになるものもある

D：日常生活を制限、障害するもの

©Shiga University of Medical Science All Rights Reserved.

ASD者の自伝的記述における感覚の問題

カテゴリー（頻度）	低閾値　（100%） 77のエピソード	高閾値　（90%） 54のエピソード
記述	【感覚過敏】 不快感、痛み 【回避】 強い否定的な反応	【低登録】 刺激の認識がない、乏しい 【感覚探求】 特定の刺激への強い渇望 過度の集中
感覚	視覚、聴覚、触覚、 嗅覚、味覚、平衡感覚	触覚、味覚、痛覚、 固有受容感覚、平衡感覚

Marie Elwin et al（2012）Archives of Psychiatric Nursingより一部改変

©Shiga University of Medical Science All Rights Reserved.

ASD者の自伝的記述から
～低閾値～

【感覚過敏】

- **外に出て太陽の光を浴びただけで（文字通り）気分が悪くなった**ことがあります。**点滅する光やスポットライトにも**同様の効果がありますが、**その影響ははるかに深刻**です。（McKean, 1994）

- **霧笛が鳴った時に頭を襲った痛みは耐え難い**ほどだった。両手で耳をふさいでも…（中略）…私は**デッキに倒れこみ叫ぶ**ほどだった。…**父母に抱きしめられても耐え難い痛み**を感じていた。…多くのASDは、本当はスキンシップを求めている。…ただ、いつ、どのくらいの強さで体を締め付けられるのかを決めるのは自分でなくてはならない。（Grandin & Scariano, 2005）

【回避】

- **身体的な触れ合い**に身を委ねることがあまりに強烈で圧倒されるような何かがあった。それは**自分と相手との間のあらゆる境界線を失ってしまうという脅威**…（中略）…**触れられることへの恐怖は死への恐怖と同じもの**だった。（Williams, 1999）

Marie Elwin et al（2012）Archives of Psychiatric Nursing より一部改変

©Shiga University of Medical Science All Rights Reserved.

ASD者の自伝的記述から
～高閾値～

【低登録】

- 私は**めったに空腹や喉の渇きを感じません**。私は自分の体からのサインを認識する方法を学びました。たとえば、食事を摂らない時間が長すぎると気分が悪くなったり、めまいがしたりするといった、はっきりとした兆候があらわれる時です。(Jansson, 2007)

- 私の体は確かにとてもしなやかで柔らかかったのですが、**体の各部分がどこにあるのか、あるいはそれらがお互いにどのような位置関係にあるのか、あまり感じることができません**でした。…私は毎日お腹を殴られた…(中略)…私は殴られてもあまり面白くなかったのだろう。**痛みの閾値が非常に高かった**し、たとえ痛くてもその感情を決して表には出さなかったからだ。(Gerland, 1997)

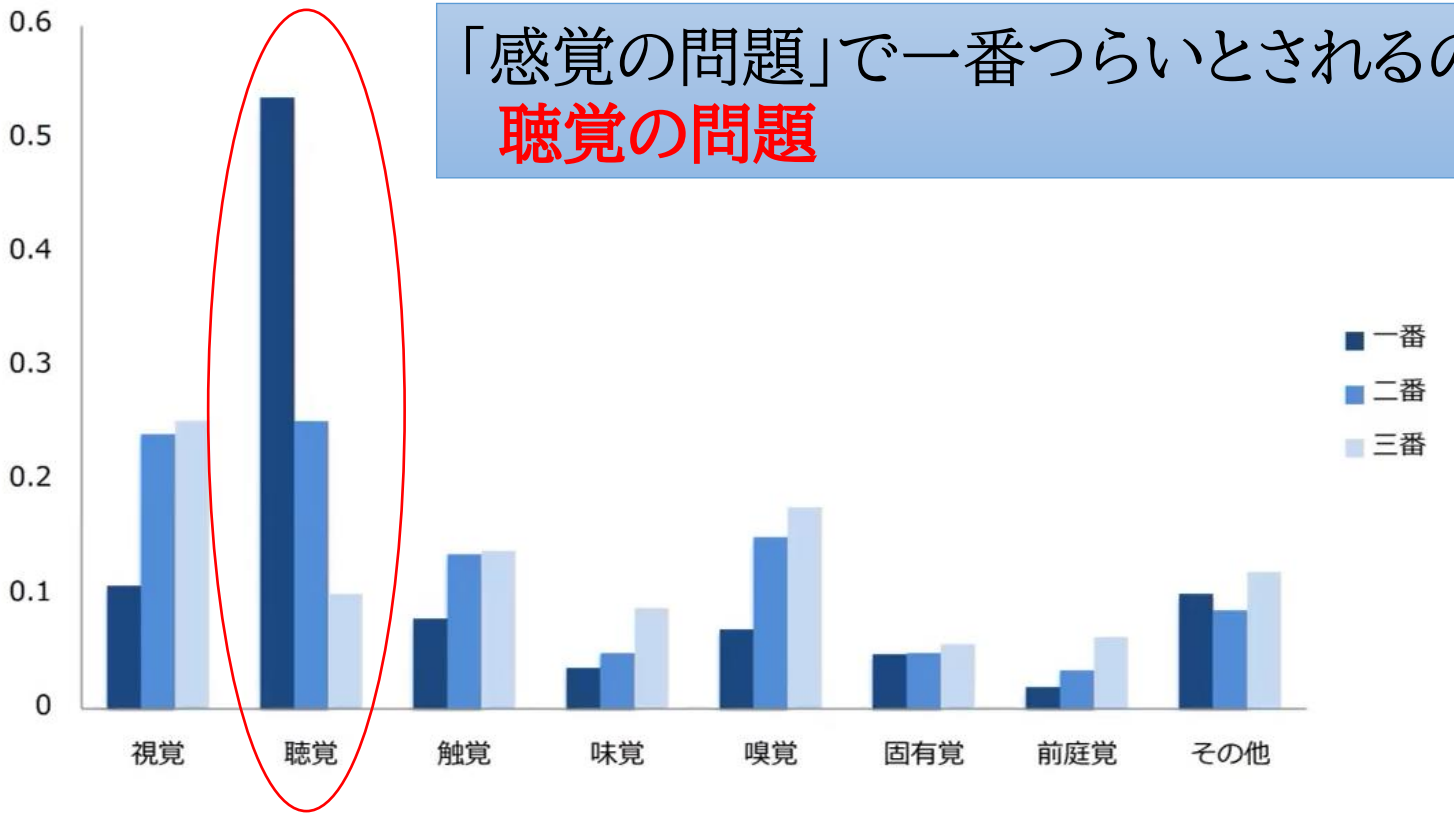
【感覚探求】

- スクイーズマシンからの**心地よい圧力を感じる**ことで、徐々に共感の感情を抱けるようになった。…私はその布地をじっと見つめ…(中略)…その茶色の**布地、その糸、そして糸と糸の間の微細な隙間に心を奪われた**。そうすると、私の魂に刻まれた傷が少しだけ癒えていくのだった。(Grandin & Scariano, 2005)

Marie Elwin et al (2012) Archives of Psychiatric Nursingより一部改変

©Shiga University of Medical Science All Rights Reserved.

当事者研究からわかること



「感覚の問題」で一番つらいとされるのは
聴覚の問題

発達障害者情報･支援センターとの連携により
同サイトで実施された発達障害児者を対象としたアンケート調査

聴覚の問題を軽減するための 支援デバイスの研究開発
国立障害者リハビリテーションセンター研究所 脳機能系障害研究部 発達障害研究室 担当者：和田真
http://www.rehab.go.jp/application/files/6116/0877/1614/hearing2020.pdf

©Shiga University of Medical Science All Rights Reserved.

感覚の問題と関係する「4A」

- 感覚の問題は**覚醒**（Arousal）、**注意**（Attention）、**情動**（Affect）、**行動**（Action）の4つのAと関係する。

例）聴覚過敏のあるお子さんが赤ちゃんの泣き声に対して…

- ・交感神経優位の**過覚醒**（頻脈、冷汗、ピリピリ）
- ・注意過多（何度も様子を見に行く、気がそれる）
- ・**否定的情動**（怒り、不安）
- ・衝動的行動（叩く、口をふさぐ）

問題となる行動の背景に**「感覚特性がないか」**は常に検討する必要がある。感覚特性が関与している場合には注意や指導による行動変容の促しではなく、**環境調整（足し算・引き算の支援）が重要**。

©Shiga University of Medical Science All Rights Reserved.

感覚特性への支援例

- 感覚特性を周囲の人に正しく理解してもらう。 例）バッチ、シール









- 普段から情動の安定化を図る。

© 2026, KANKAKU FACTORY

- 不快な刺激を低減するよう環境調整する。 例）イヤーマフ、サングラス

- 対処行動のバリエーションを増やし、適切な代替行動の獲得を支援する。
  例）感覚刺激グッズ

©Shiga University of Medical Science All Rights Reserved.

音環境保全のためにできること

- 落ち着ける居場所づくり（コーナーづくり）





- 落ち着ける居場所づくり（自作小空間：二歳児室）





©Shiga University of Medical Science All Rights Reserved.

感覚過敏への対処（引き算の支援）

感覚	問題	解決策（環境調整、感覚からの一時避難、道具の工夫）
聴覚	音の調整が苦手	（自らの工夫） 耳栓をする、ヘッドホンで音楽を聴く 電話の着信音を小さくする 環境音楽などの「ホワイトノイズ」を鳴らす （学校での工夫）教員の声の調整、席の配慮
視覚	蛍光灯のちらつき	（自らの工夫） つばのある帽子をかぶる、着色眼鏡をかける 照明器具の変更、自然光の利用 （学校での工夫）暗い部屋の利用、席の配慮
触覚	物・人の接触が不快	（自らの工夫） タグを切る、縫い目のない柔らかい服を着る 好みの素材の服を着る （学校での工夫）人が少ない部屋、パーテーションの活用
嗅覚	臭い⇒吐き気	（自らの工夫） 周囲へ苦手な臭いを伝え配慮を依頼する 好きなアロマをハンカチに染ませ、適宜かぐ （学校での工夫） マスクの着用

テンプル・グランデイン著　梅永雄二監修
『アスペルガー症候群・高機能自閉症の人のハローワーク』
岩永竜一郎編著『発達障害のある子の感覚・運動への支援』より一部改変

©Shiga University of Medical Science All Rights Reserved.

参考文献

- 『感覚過敏の僕が感じる世界』 加藤路瑛　著

- 『発達凸凹なボクの世界―感覚過敏を探索する』 プルスアルハ著

ご清聴ありがとうございました。

©Shiga University of Medical Science All Rights Reserved.